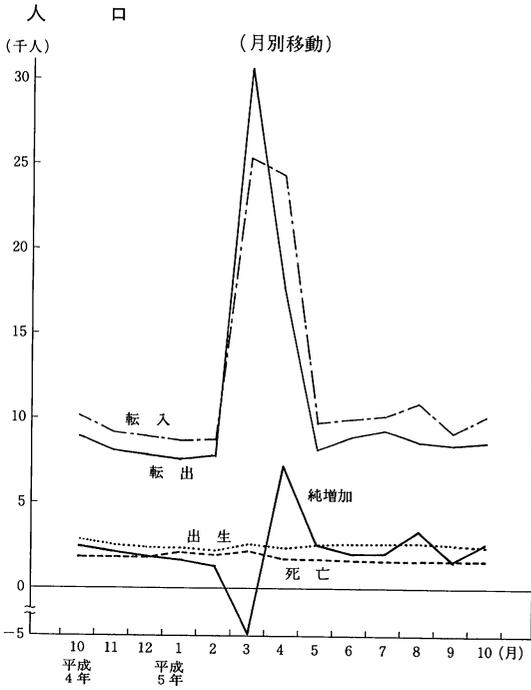
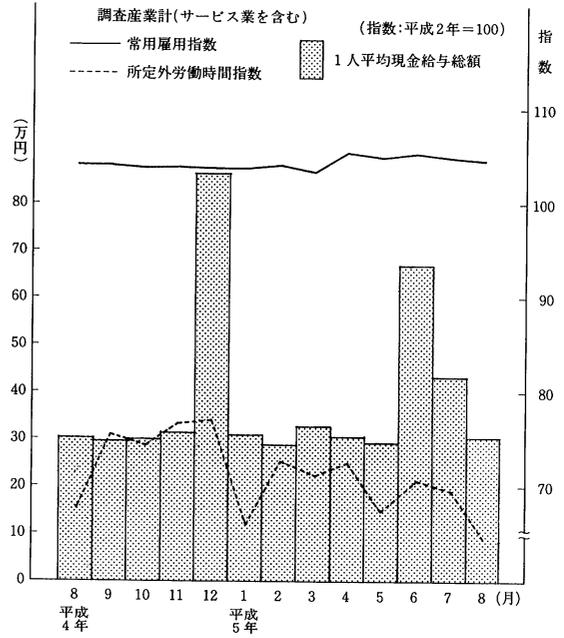


● 今月の主な動き

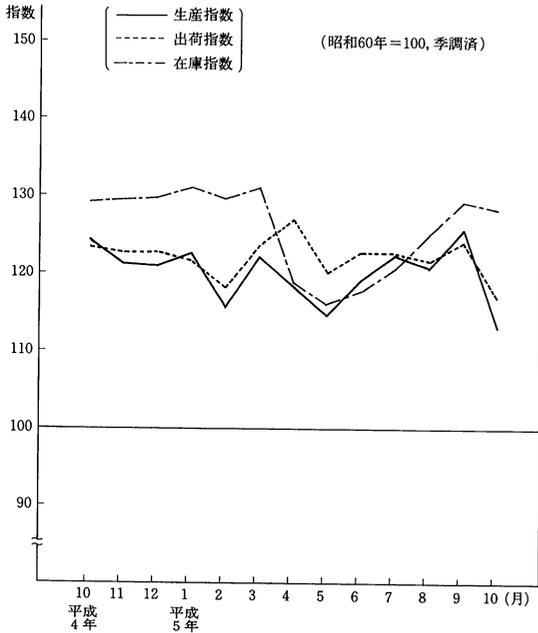
今月の主な動き



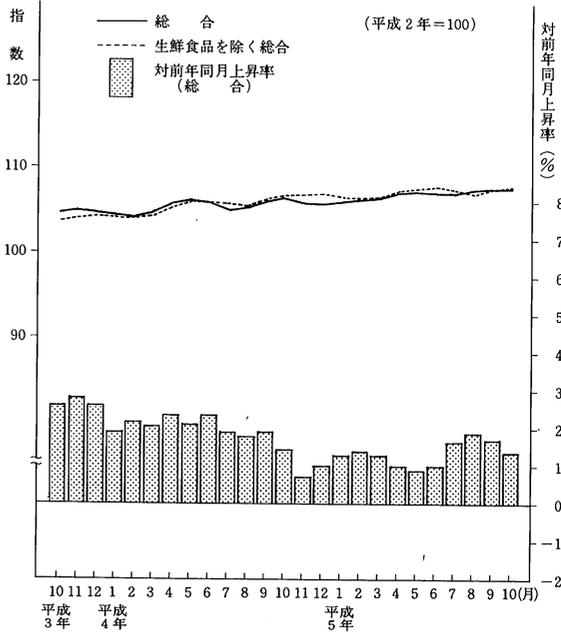
賃金・労働時間・雇用



鉱工業指数(生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし…………… 企画部統計課

■ 人 口 (11月 1 日)

本県の人口は、10月中旬に2,436人増加し、11月1日現在で2,929,188人(男1,464,387人、女1,464,801人)となった。

内訳は、自然動態で810人(出生2,320人、死亡1,510人)増加し、社会動態で1,626人(転入10,036人、転出8,410人)増加した。前年同月と比べると22,439人(0.77%)の増加で

ある。

市町村別では、増加が18市43町村、減少が2市21町村、増減なしが3町村である。

世帯数についても10月中旬に1,626世帯増加し896,121世帯となった。

■ 賃金・労働時間・雇用 (8 月)

1. 平均賃金の推移

8月の現金給与総額は、調査産業計で304,734円、対前年同月比1.7%増、このうち、きままって支給する給与は287,962円、対前年同月比1.6%増であった。また、このうち、所定内給与は263,244円、対前年同月比1.0%増であり、超過労働給与は24,718円、対前年同月比2.7%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比もちあひだった。

※この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

2. 労働時間

8月の総実労働時間は、調査産業計で147.7時間、対前年同月比2.2%減であった。このうち、所定内労働時間は135.2時間、対前年同月比1.8%減、所定外労働時間は、12.5時間、対前年同月比5.3%減であった。

3. 雇用の動き

8月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比0.9%増であった。

■ 鉱工業指数〈生産・出荷・在庫〉 (10月分)

本県における平成5年10月の“鉱工業指数”(昭和60年=100)は、季節調整済指数で、生産が112.7、出荷が116.7、在庫が128.3で、前月比は、生産が△10.6%の低下、出荷が△5.9%の低下、在庫が持ち合いであった。

前年同月比(原指数)は、生産が△9.6%の低下、出荷が△5.7%の低下、在庫が△0.6%の低下であった。

業種別に前月比をみると生産では、石油・石炭製品工業、鉱業、プラスチック製品工業等が上昇し、精密機械工業、電気機械工業、非鉄金属工業等が低下した。出荷では、鉱業、石油・石炭製品工業、食料品・たばこ工業等が上昇

し、精密機械工業、電気機械工業、非鉄金属工業等が低下した。

在庫では、精密機械工業、パルプ・紙・紙製品工業、プラスチック製品工業等が上昇し、鉱業、食料品・たばこ工業、石油・石炭製品工業等が低下した。

特殊分類別にみると生産では、資本財、鉱工業用生産財等全てが低下した。出荷では、その他用生産財、非耐久消費財が上昇し、資本財、建設財等が低下した。在庫では、鉱工業用生産財、耐久消費財等が上昇し、その他用生産財、非耐久消費財等が低下した。

■ 消費者物価指数 (10月)

平成5年10月の茨城県消費者物価指数(県平均)は、総合で107.3(平成2年=100)となり、前月と変わらず、前年同月比1.3%の上昇となった。

今月の上がった主な項目……果物9.0%、穀類2.6%、魚介類2.4%、衣料1.3%、家庭用耐久財1.0%

今月の下がった主な項目……野菜・海藻9.2%、身の回り用品2.5%、飲料1.0%、医薬品1.0%

生鮮食品を除く総合は107.5となり、前月比は0.2%の上昇、前年同月比は1.2%の上昇となった。

費目別指数

(平成2年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総 合	107.3	0.0	1.3	保健医療	102.6	△0.4	0.2
食 料	106.7	△0.5	1.0	交通通信	100.5	0.1	0.9
住 居	113.3	0.4	2.3	教 育	110.1	0.0	3.8
光熱・水道	103.1	0.0	0.2	教養娯楽	108.8	0.6	1.0
家具・家事用品	101.8	0.1	0.1	諸 雑 費	103.2	△0.6	△0.5
被服及び履物	114.7	0.4	2.0	生鮮食品を除く総合	107.5	0.2	1.2